

子ども未来通信 創刊号

日本の人口は、昨年、減少に転じました。兵庫が人口減少県になるのも間近に迫っています。県は、少子化に歯止めをかけるため、昨年 8 月に少子対策本部を設置し、男女の出会い、結婚、出産、子育てや女性の再就職などライフステージに応じたきめ細かな支援策を展開しています。とりわけ、仕事と子育ての両立支援や地域ぐるみの子育て支援は、県・市町と企業、地域団体や NPO が協働して取り組むことが重要です。皆様と最新の情報を共有するため、このたび、少子対策本部ニュース「子ども未来通信」を創刊します。少子対策はまさしく待ったなしです。ともに手をたずさえ、今できることから取り組んでいきましょう。

兵庫県少子対策本部長(兵庫県知事) 井戸 敏 三

ひょうご出会いサポートセンター オープン

6 月 19 日、神戸クリスタルタワーに「ひょうご出会いサポートセンター」がオープン。

センターでは少子化の大きな要因となっている晩婚化・未婚化に歯止めをかけるため、ホテル・レストランなどの協力を得て男女の出会いのイベントを企画。企業、自治体、地域団体を通じて独身の社員、職員などに参加を呼びかけます。



(問) 青少年本部 078-367-3810

ひょうご女性チャレンジひろば オープン

翌 20 日、同じクリスタルタワーに「ひょうご女性チャレンジひろば」がオープン。

出産や育児のため一度退職し、再び就職や地域活動等を希望する女性などを総合的に支援するため、ワンストップでの情報提供や相談を行います。また、出産・育児による女性離職者を試用雇用した事業主に一人あたり最大 30 万円の「ひょうご女性再就職奨励金」を支給します。



(問) 県立男女共同参画センター 078-360-8550

生徒らが力を合わせ看板製作 - 県立山の学校

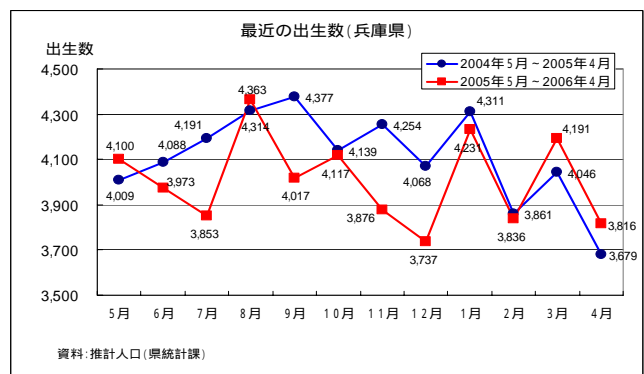
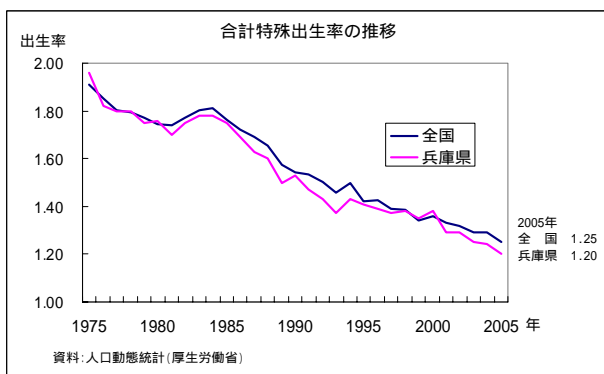
出会いサポートセンターと女性チャレンジひろばの看板は、井戸敏三知事の揮毫を県立山の学校の生徒たちに彫り込んでいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。



平成 17 年の出生率発表 出生数は回復のきざしも

6 月 1 日発表の人口動態統計によると、平成 17 年の合計特殊出生率は 1.25 (兵庫県は 1.20) と、過去最低を更新。

一方、全国の結婚件数は 17 年後半から上昇傾向にあり、県内の出生数も 18 年に入ってから 3 月・4 月と連続して前年同月を上回るなど、出生数回復を期待させる兆しも見られます。



兵庫県地域女性団体ネットワーク会議が緊急呼びかけ決議

県地域女性団体ネットワーク会議(代表 北野美智子・県連合婦人会会長)は、6月2日に開催した代表者会議で、子どもが犯罪被害者となる凶悪事件・行方不明などが多発していることを受けて、日常的なあいさつ、声かけ、地域での連携など、子どもの安全を守るための地域での取り組みについて、会員に対して緊急呼びかけを行うことを決議しました。同ネットワーク会議は、今後、会議を構成する女性団体の各会員にこの呼びかけを行い、各地域から全県的に子どもの安全を守るための様々な取り組みを進めていくこととしています。



県・市町の協働がスタート

県と市町が協働して少子対策を進める「県・市町少子対策協働会議」が6月5日に発足。森・県少子局長による国・県の取り組み紹介の後、神戸市など5市が事例報告。その後、全員が地域別のワークショップに参加し、県民局地域協働課職員の司会により市町担当者が意見交換。清原理事のコメントで全体会議を締めくくった。この日の会議を踏まえ、今後、県民局を中心に地域それぞれの特色ある少子対策の展開に向けた情報交換が行われます。

新聞社も市町の少子対策に注目

協働会議は終了までマスコミにオープン。多数の記者が取材され、中でも神戸新聞の記者は最後までメモ取り取材。会議終了後にアンケート用紙を配布し、市町の少子対策につき回答を依頼。今後、アンケートをもとに市町を取材される予定とか。



NPO代表と少子対策本部事務局が顔合わせ



6月2日、ボランティアプラザに少子対策本部事務局とNPOなど13団体の代表が参集。県と各団体がお互いに取り組みを紹介した後、少子・子育て対策をNPOと行政が協働して進めることに合意。「さんぴいす」の河口代表と「キッズネスト」の片山代表がNPOの窓口となり、県と今後の具体的な進め方について協議することも決定されました。

全国初、子育て応援企業と県の協定締結に向け企業募集開始

県と連合兵庫、兵庫県経営者協会は、少子化に歯止めをかけようと平成18年3月に「仕事と生活の調和と子育て支援に関する三者合意」を締結。この合意を踏まえ、県では子育て応援企業を支援するため、6月19日から協定を締結する企業等の募集を開始しました。

協定の対象は、育児休業の取得促進など職場環境整備や、子育て世帯への商品の割引など、地域で子育て支援を行っている企業、店舗や青年会議所、商店街などの団体。協定締結企業等は、県がホームページや広報誌で企業名や取り組み内容を紹介。公共事業入札参加資格の点数が加算されるほか、企業の商品パッケージ、広告等で子育て応援企業として表示することも可能となります。

(問)少子政策課 078-362-4232

少子対策にお役立ち情報満載の資料をご活用ください

少子対策本部では、子ども未来プランの冊子とチラシ、団体、事業者向け支援策一覧のチラシなどを作成。未来プランのチラシは少子化の最新データから主な施策までA4一枚に網羅。支援策一覧は地域団体・NPO向けと事業者向けに分けてA3両面にまとめていますので、皆様が主催される会議でもぜひ活用ください。

(問)少子政策課 078-362-4232 / E-mail:shoshiseisaku@pref.hyogo.jp



子ども未来フォーラム開催 (7月20日(木)13:30～・県公館)

「仕事と生活の調和」をテーマに内閣府・兵庫県共催で全国最初のフォーラムを開催。当日は、井戸県知事と猪口邦子内閣府特命担当大臣(少子化・男女共同参画)らによるパネルディスカッションや県内企業の取り組み報告などが予定されています。(問)少子政策課 078-362-4232

妊婦健康診査費補助事業がスタート(7月1日～)

安心して出産を迎えられるよう、県内の妊婦後期(妊娠22週以降)の方を対象に、市町が実施する妊婦後期健康診査費について15,000円を上限に助成します。所得制限あり。

(問)お住まいの市町窓口または県健康増進課 078-341-7711(内線3250)

加古川市・かこがわウイズプラザ

加古川市は、平成 16 年 10 月に、加古川駅前総合的な子育て支援施設「加古川駅南子育てプラザ(かこがわウイズプラザ)」を開設。「こども広場」は毎日多くの乳幼児と保護者でにぎわい、子ども同士が友だちになったり、保護者同士がお互いに情報交換や悩みを話し合ったりするなど、子育て家庭の憩いの場となっています。

また、子育て相談センターでは、子育て講座や講演会を開催。子育てホットライン(午前 9 時～午後 5 時)を開設し、心理相談員が育児不安や子どもの情緒面の心配などの相談に応じています。さらに民間保育園も併設。プラザの開館時間は午前 8 時～午後 8 時(年末年始を除く毎日)と市民の利便に配慮されています。



㈱ロック・フィールド (神戸市東灘区)

㈱ロック・フィールド(総菜製造・販売)は、「私どもは総菜を提供することで働くお母さんたちを応援している企業。それならば子育て中の従業員の応援もしなければいけないだろう」(中野郁夫社長室長)と平成 13 年に静岡の工場内に保育室を設置。



その後、16 年の本社移転に合わせ神戸にも保育室を設置。設計・監理は安藤忠雄建築研究所が担当し、ガラス張りで 240 平方メートルの広さ。外から広い空間で自由に遊び回る子どもたちの姿が見える設計となっています。今年 4 月から受け入れを開始し現在、保育室で預かる子どもは 9 人で定員の 30 人に達するのも時間の問題。中野室長は「保育室があることで 20 代から 30 代の若い母親の活躍が期待できますし、その世代のニーズを拾い上げることにもつながります」と保育室設置のメリットを実感されています。

高砂市地域子育て支援ネットワーク

高砂市地域子育て支援ネットワーク(北野美智子代表)は、婦人会、消費者協会、老人クラブなど 13 団体で構成し、子どもの見守り活動を開始。現在は P T A や子ども会が主となって多くの団体と連携して活動を展開しています。校区ごとに見守り箇所をいくつか決め、メンバーが交代で登下校時に通学路に立ち子どもたちに声掛けを実施し、市北部の阿弥陀小学校区では、登下校あわせて 120 人ほどが街頭に立たれています。



高砂市のような取り組みは県下全域に広がり、地域に応じた様々な活動が展開されており、子育て応援ネットは、現在、40 市町・724 校区でネットワークが立ち上がり、全校区での立ち上がりを目指しています。「地域の全員が子どもを守る側になれば傷つける人はいなくなる」と北野代表。

子どもを地域全体で守る活動はまだ始まったばかり。熱い思いを胸に地道な活動はこれからも続きます。

NPO 法人 さんびいす (芦屋市)

さんびいすは「学びの原点は遊び！」を合い言葉に「人と遊びと学びの場作り」に取り組む N P O。これまで「子育て支援フォーラム」の開催、「芦屋川探検隊」による子どもの環境学習などの活動を展開し、昨年 12 月には子育て支援のためのインキュベーションセンター「ぷらっと」を芦屋市にオープン。

核家族化が進む子育て中の世代と、すでに子育てを終えたシニア世代との出会いの場を提供し、新たな子育て支援の輪を広げています。「子育てというすべての人に関わりが持てるキーワードを使い、街と人々を元気にしていく活動を続けていきたい。」と河口代表の思いを聴かせていただきました。



合計特殊出生率って何？

少子化と言えば、まっ先にでてくるデータが「合計特殊出生率」。6月1日の人口動態統計の発表を受けて、報道各社が「女性が一生に産む子供の数を示す合計特殊出生率は1.25と過去最低を更新…」などと報じました。でも、「女性が一生に産む子供の数」って、どうやって計算したのでしょうか。それに、なぜ「合計」で「特殊」な出生率なのでしょう。

今回は、誰もが知っているようで、説明がやっかいな合計特殊出生率を調べてみました。

まず、どうやって合計特殊出生率を算定するのでしょうか。

それは、**1年間の15歳から49歳までの女性の各年齢の出生率を合計**して算定します。

各年齢の出生率は、**X歳の女性が生んだ子の数 ÷ X歳の女性数**で計算され、X歳の女性一人が生んだ子どもの数の平均(0コンマいくらになります)を表します。

なお、女性数には、子どもを産んだ女性だけでなく産んでいない女性も含まれています。

こうして計算される合計特殊出生率をわかりやすく「女性が一生に産む子どもの数」と言い換えているのですが、「1年間に女性一人が生んだ平均子ども数で、年齢別に女性の数を同数にして計算したもの」と言う方がもう少し正確かと思われま。

例として兵庫県の合計特殊出生率の計算方法をお示しします。

母親の年齢層を5歳区分にまとめて出生数が公表されるので、15 - 19歳といった5歳ごとに出生率を計算し、年齢区分の出生率を合計した数値を5倍して合計特殊出生率を算定します。

なお、市町の平成17年の出生数は18年秋頃に公表されるので、17年の合計特殊出生率は、その公表後に算定される予定です。

区 分	女性人口 ¹	出生数 ²	出生率 ³
15-19 歳	141,000	736	0.0052
20-24 歳	165,000	5,063	0.0307
25-29 歳	188,000	14,803	0.0787
30-34 歳	222,000	19,050	0.0858
35-39 歳	199,000	6,837	0.0344
40-44 歳	182,000	762	0.0042
45-49 歳	170,000	30	0.0002
合 計	-	-	0.2392

× 5 =

合計特殊出生率： 1.20

- 1 女性人口は概数のため、千人単位
- 2 区分欄の年齢層の女性が生んだ子ども数
- 3 出生数 ÷ 女性人口

合計特殊出生率は年齢別の出生率を合計しているので**年齢構成の違いが除かれ**、30年前と現在、日本と欧米各国、本県と他府県など、異なる時期や地域で出生率を比較する際によく用いられます。

総出生数 ÷ 総人口で算定される出生率(普通出生率)は、若年層が多い地域は高く、少ない地域は低くなります。

最後に、なぜ「合計」で「特殊」な出生率なのでしょう。これまでの説明でお分かりかも知れませんが念のため。「合計」がつくのは、年齢別の出生率を「合計」しているからで、「特殊」がつくのは「普通」出生率と区別するためです。ちなみに、合計特殊出生率のオリジナルは「total fertility rate」(直訳すれば「合計出生率」)。「特殊」を意味する用語はないので、日本語に訳す際に加えられたようです。

府県別合計特殊出生率 (平成 17 年)



編集部からのお願い

- ・兵庫県少子対策本部ニュースは、少子化の最新の動向、県や市町の取り組みや事業者、地域団体、NPOの先導的な活動を毎月1回、皆様にお伝えします。
- ・メール送信を希望される方は、下記編集部のアドレスあて「少子対策本部ニュース・メール送信希望」と送信ください。環境配慮(ペーパレス化)のためにも、メール送信にご協力ください。
- ・掲載を希望される記事、情報などがありましたら下記まで連絡ください。

兵庫県少子対策本部事務局：〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1

(健康生活部少子局少子政策課)

TEL:078-362-4232 FAX:078-362-3011

E-mail:shoshiseisaku@pref.hyogo.jp

子ども未来通信 7月号

全国に先がけ

子ども未来フォーラムを兵庫県で開催



猪口大臣



井戸知事

7月20日、全国で初めて子育て支援の政労使三者合意を締結した兵庫県で、全国に先がけて内閣府と共催の「働き方の見直し」をテーマとした「子ども未来フォーラム」を開催。会場の兵庫県公館は、雨天にもかかわらず350名が参加し、満員で立ち見が出るほどの入りになりました。星和台幼稚園の園児による合奏でスタート、猪口内閣府特命大臣（少子化・男女共同参画）による政府の少子化対策についての基調講演の後に、仕事と生活の両立支援に先進的な取り組みを行っている県内の3つの企業が事例発表を行いました。事例発表に続いて、猪口大臣、知事、連合兵庫の北条会長、兵庫県経営者協会の池田会長が参加して、「仕事と生活の調和」をテーマに、パネルディスカッションを行いました。

基調講演（猪口大臣）

日本は欧米に比べて女性の労働力が低く、男性の家事・育児時間が最低水準となっている。諸外国では働く女性が多いほど出生率も上がっている。子育て支援には女性だけではなく、男性を含めた労働時間の抜本的な改善が必要である。また、日本は女性の7割が出産を機に離職し、仕事と家庭の両立支援も課題が多い。企業には働き方の見直しで力を発揮していただきたい。

パネルディスカッション（主な意見）

井戸知事

少子化の進展に歯止めをかけるため、昨年8月に県庁内に少子対策本部を置き、全庁を挙げて対策に取り組んでいる。少子化問題は、子ども人口の増加と生まれた子どもを健やかに育てるといふ、数と質の両面から社会全体で取り組むことが不可欠であり、このため、総合的な少子対策の行動計画である「ひょうご子ども未来プラン」を策定した。出生数25万人の目標値を設けたが、これは単に施策を行うというだけでなく、目標に向かってしっかりと施策を講じるということを示したものである。

本日のテーマである仕事と子育ての調和の取り組みについては、本年3月に、連合兵庫、県経営者協会、兵庫県の三者で合意を締結した。「子育てしながら自己の生きがいをどのように確立するのか。」「子育てを終えてからどのように活躍するのか。」などについて、企業、労働組合と協働で具体化を進めている。

北条連合兵庫会長



労働組合がある企業の労働条件を子育てしながら働きやすくすることが、全ての労働者の働き方の改善に繋がるので、男女共同参画や仕事と子育ての両立を要求している。労使は社会の要請に応える必要がある。兵庫県では政労使三者の信頼関係のもとに、合同で北欧などの先進地の視察などを行い、改善に努めてきた。子育てでも、遠慮なく休みが取れる職場の雰囲気づくりが重要である。多様な働き方を進める中で、正規とパートで、仕事の内容や責任の度合いが同じであっても、賃金に格差が生じている場合があり、この点は改善を図る必要がある。経営者も、人を大切にする経営理念を忘れることなく、日本型のダイバーシティ（多様性）を目指してほしい。

池田経営者協会会長



経営者の意識改革を求めていくことが大切である。子育て支援は、環境問題と同様に企業の社会的責任の一つであり、これに積極的に取り組むことによって、企業のイメージが向上するメリットがある。先見性に秀でた経営者は進んだ取り組みをされている。先導的な取り組みを他の企業の経営者に普及する努力をすることとともに、子育て支援を重視する新しい時代の経営者のあり方を確立していくことが大事である。しかしながら、大半は、中小企業、個人企業であり、行政も力を貸して欲しい。



猪口大臣

少子化は、国の基幹にかかわる事象であり、自治体、企業、個人が「それぞれの持ち場で、自分がやらなければ、誰がやるんだ。」という意気込みを持って取り組んで頂きたい。また、意識改革や取り組みの具体化を図るために、数値目標を掲げて対策に取り組むことが重要であり、既に、数値目標を掲げているものについても 2、3 年前倒しすることも必要である。



事例発表

株式会社ロック・フィールド 岩田代表取締役社長

(神戸市東灘区：そうざいの製造・販売)

静岡工場に事業所内保育施設を設けたことにより、優秀な人材が集まってきた状況や、神戸本社にも同様の保育施設である「元気の木保育室」を設けたことで、子どもを預けて安心して働く社員の姿などを紹介。



株式会社エス・アイ 今本代表取締役社長

(姫路市：データ入力・加工)

社員の家庭と仕事の両立を支援し、優秀な人材を確保するために導入した独自のワークシェアリング手法である自由出勤制度と、これに伴い正社員・パートの区別をなくしたこと、育休後の復職の容易さ等の効果について紹介。(詳細は 4 ページ参照)

日本イーライリリー株式会社 伊東ダイバーシティ・管理部門担当人事部長

(神戸市中央区：医薬品の輸入製造販売業)

多様な人の能力を活かし、企業の競争力を高めるため、社員 1 人ひとりが持つ様々な違いを受け入れる「ダイバーシティ」の考え方にに基づき導入した短時間勤務制度、育休代替職員確保のしくみ等を紹介。

さわやかステージ



開会にあたり、星和台幼稚園(神戸市北区)の園児の皆さんに、手話付きの斉唱で「切手のない贈り物」、鍵盤・ハーモニカ奏で「メリーさんの羊」、斉唱で「お星様ピカリ」、「ロケット バビューン」を、元気いっぱい披露いただきました。

お子さんの一時預りも実施

子育て中の方に参加して頂くために、フォーラム会場周辺に一時預かりの保育スペースを設け、就学前のお子さんを預かりました。おとうさん、おかあさんは、フォーラム会場で熱い議論を傾聴し、子どもさんは涼しい場所で保育士さんとお遊びタイム。親も子も有意義な時間を過ごすことができました。



妊婦健康診査に要する費用の助成をスタート（7月1日）

妊婦がより健やかな妊娠期を過ごし、安心して出産を迎えるためには、妊婦健康診査が重要です。本年7月から、県内に住む妊婦が安心して出産を迎えられるよう、市町が実施する妊婦後期健康診査費について助成を行っています（1万5,000円を上限、所得制限あり）。

（問）お住まいの市町の母子保健窓口または県健康増進課 078-362-3250

政労使の三者が子育て支援のアクションプログラムを策定（7月3日）



三者合意協定締結式

本年3月31日に、連合兵庫、県経営者協会、兵庫県は、「仕事と生活の調和と子育て支援に関する三者合意（ひょうご子ども未来三者合意）」を締結。この合意を踏まえ、協働で子育て支援の具体化を図るため、7月3日にアクションプログラムを策定しました。今後、アクションプログラムに基づき、「育児休業等の取得促進」、「子育て支援ボランティア活動の組織的サポート」、「フリーター・ニートに対する様々な支援の検討」などの取り組みを三者の協働により進めることとしています。

（問）労政福祉課 078-362-3360

子育て応援元気アップ賞を創設（7月12日）

兵庫県は、新たに、子育てと仕事の両立のために職場環境の充実に取り組む企業や、地域の子育てに貢献する個人・企業・団体等を表彰する制度を創設しました。10月末を目途に、表彰者を決定し、11月以降に県下各地で開催する地域少子化フォーラムで顕彰することとしています。

（問）少子政策課 078-362-4232

子育てファミリー・サポートくらの活動助成金の受付を新たに開始（7月18日）

兵庫県では、新たに地域できめ細かく子育ての助け合いや仲間づくりを進めることを目的に、子育ての援助を受けたい家庭に対し、子どもの一時預かりや送迎の支援を行うグループ等の立ち上げや運営に対する助成制度を設け（上限10万円）受付を開始しました。（募集期限：8月31日まで）

（問）少子対策課 078-362-4185

ボラターン研修保育体験コース開始（7月24日）

県職員や市町職員が保育の体験を通じて、子育ての楽しさや少子化問題の理解を深めるための研修の開講式が県自治研修所で開催されました。当日は、県・市町職員あわせて72名が参加し、県自治研修所と県保育協会、姫路市保育協会との研修を実施するための協定締結式の後、清原県理事による少子化の現状と行政職員としての心構えについての講義、頌栄短期大学 戸江教授による子育て支援と保育所の役割についての講義が行われました。



8月上旬から保育園での実習が開始されます。

平成18年度県民ボラタリー活動助成エントリー（事前申込み）受付中!!!

子育て支援や子どもの健全育成等をはじめとするボラタリー活動を行う団体に対する助成の申し込みを開始しました。

対象：平成18年度に県内でボラタリー活動を12日以上実施している5人以上のグループ・団体（その他要件あり） 助成額：対象経費の1/2以内（上限3万円） エントリー（事前申込み）：活動している地域の市区町社会福祉協議会へ届け出。（エントリー期間：9月8日<金>まで）（問）ひょうごボラタリープラザ 078-360-8845 または各市区町社会福祉協議会

東播磨父親子育てフォーラム開催 “夫婦で子育て～参加しようお父さん～”

（8月26日（土） 10:00～12:30・明石市立産業交流センター）

父親の育児参加を促す楽しいトークやゲームを取り入れ夫婦で子育てを考えるきっかけ作りをします。お子さんと一緒に家族で楽しめるイベントもあります。参加費無料（講演中託児あり）

（問）東播磨県民局加古川健康福祉事務所 調整担当 079-421-9292

「あけてニッコリ!! わくわくお弁当コンテスト」「見て楽しい! 食べておいしい! おにぎりコンテスト」

（募集期間 7/20（木）～9/20（水））

食育を通じたこころと身体の育成を推進し、次世代を担う子どもたちの豊かな人間性を育むことを目的とした、お弁当のコンテストを実施します。

- ・（小・中学生対象）「お父さんに食べてもらいたい! お母さんに作ってあげたい! おにぎり部門」
- ・（小・中・高校生対象）「私のまちのうまいもん! ふるさと弁当部門」
- ・（高校・大学・専門学校生・一般対象）「おいしく健康! ヘルシー弁当部門」

（問）総合農政課 078-362-4458

丹波市「子育て応援プラン」

丹波市では、こころとからだ、経済面でのサポート事業を進め、安心して産み育てられる環境づくりを推進するため、子育て応援プランに基づく各種施策が推進されています。今年度から「3チャイルドすこやか支援事業」、「少子化対策民間活動支援事業」、「ファミリーサポートセンター事業」の特徴的な3つの取り組みが開始されました。「3チャイルドすこやか支援事業」は、3人以上子どもがいる世帯の第3子以降の子どもに3歳まで子育て支援手当を支給し、育児に係る経済的負担の軽減を図るものです。また、「少子化対策民間活動支援事業」は、子育て支援や男女の出会いの場づくりなどの活動をしている民間団体等の活動に助成を行うものです。さらに、「ファミリーサポートセンター事業」を開始し、親子の仲間づくりや仕事と子育てを両立し安心して働くことができる環境整備の充実も図られています。



(株)エス・アイ (姫路市)



(株)エス・アイは、独自のワークシェアリング手法により、仕事と家庭を両立できる職場環境づくりを図っているデータ入力・加工会社。

同社の特徴はなんといっても、自由出勤制度。午前8時半～午後5時半までの作業時間の間で、出勤時間・退勤時間や休みをその日、その人により自由に設定できるといふ制度。また、自由出勤としつつも、業務に支障をきたさないように、「協調性ポイント制度」を設け、業務が忙しく多数の出勤が必要な日は、ポイントを加算し時間給に反映させるなど、様々な工夫がなされています。

こうした制度のためか、社員の方も出産に意欲的で、「結婚したら子どもは3人ほしい」という方も多くいらっしゃいました。「次は託児所をつくるのが夢です」と、今本社長に仕事と家庭を両立できる職場づくりに向けて新たな目標も聞かせていただきました。

子育てひろば「ぐっでいばらざ」(西宮市)

幼稚園の中にカフェがオープン？！

地域の方で0歳から就学前の親子を対象に、いつでものんびりと気分転換をしたり、身近な子育て仲間をつくったり、情報交換ができる「子育てひろばぐっでいばらざ」が、西宮市段上幼稚園内(学校法人阪急学園)に本年5月にオープンしました。その広いフローリングフロアの一室に、お母さんは珈琲をゆっくり飲みながら、子どもはおもちゃなどで遊べる、親子カフェ『ぐっでい・かふえ』も同時にオープン。「安心して楽しく遊べ、待ち合わせ場所にも最適。ゆっくりと足を伸ばし、『こどもはみんなすばらしい』と思える楽しい1日をお過ごしください」と、スタッフの二葉武也さん。子どもたちが、「こっちこっち」と、二葉さんの手を引っ張ります。月曜日から土曜日まで毎日10時から17時まで。毎月親子参加のイベントの実施のほか、主婦やシニアを対象に、生きがいづくり、居場所作りのためのボランティアも募集しています。



ご利用の際は登録が必要です(有料) (問)0798-57-3789

NPO 法人 キッズネスト (神戸市)



隔離保育室

キッズネストでは小児科に併設した病児保育室「プエリ」と保育園「ピピオ」を運営。プエリでは水疱瘡やおたふく風邪など移りやすい病気の急性期にも対応できるよう、入り口を別にした隔離保育室が設けられています。また、「ピピオ」で預かっている子どもが発熱した場合、保育士が付き添って医師の診察を受けた後、病児保育に移ることができるので、親が早退する必要がありません。症状の変化にはすぐに医師が対応するので、安心して預けられます。

「開業計画の当初より、病児保育を行なうことを目的として施設を設計しています。診療と保育を通して、子どもが子どもとして育つことの支援だけでなく、親が親として育っていくことの手助けもしていきたい。」と片山代表。

(問)片山キッズクリニック 078-802-5990 病児保育室プエリ 078-802-5996 保育園ピピオ 078-802-5992

編集部からのお願い

- ・メール送信を希望される方は、下記編集部のアドレスあて「少子対策本部ニュース・メール送信希望」と送信ください。
- ・掲載を希望される記事、情報などがありましたら下記まで連絡ください。

兵庫県少子対策本部事務局：〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1
(健康生活部少子局少子政策課) TEL:078-362-4232 FAX:078-362-3011
E-mail:shoshiseisaku@pref.hyogo.jp

子ども未来通信 8 月号



ひょうご出会いサポートセンター第 1 回イベント開催・カップル 4 組誕生 (8 月 19 日)



「晩婚化・未婚化の進行」に対する取り組みとして、社会全体で結婚を応援するため、(財)兵庫県青少年本部に開設した「ひょうご出会いサポートセンター」が第 1 回イベントをホテル北野プラザ六甲荘(神戸市中央区)で開催。参加者は、当初男女とも 20 名の定員のところ、男性 28 名、女性 51 名の応募があったため、抽選で 25 名ずつに決定。参加者は会社員、県職員で平均年齢は男性 33 才、女性 30 才。また、参加された方からは、「素敵なお方と巡り会えた。」「色々な方と知り合える良い機会になった。会社の同僚にも参加を勧めたい。」との声。なお、サポートセンターでは、次回イベントを 9 月 1 日に開催。年度内に 30 回程度素敵なお出合いの場を提供します。

(問) ひょうご出会いサポートセンター((財)青少年本部内) 078-367-3810

県庁版出会いサポート事業を実施 (8 月 24 日～27 日)

兵庫県では、職員互助会事業の「職員ふれあいの船」の中で、独身職員を対象とした「県職員版出会いサポート事業」を実施。渡航先は、韓国の釜山、慶州など。夏季休暇を使って参加された皆さん、結婚の報告をお待ちしています。

少子対策本部設置 1 年を振り返って知事記者会見 (8 月 21 日)

兵庫県では、昨年 8 月 25 日、全国に先駆けて少子対策本部を設置して以来、「ひょうご子ども未来プラン」を策定し、男女の出会い、出産、結婚、子育てや女性の再就職などライフステージに応じたきめ細かな支援策を展開。この間、出生数は 18 年上半期で前年同期と比べ約 2% の増加となっています。井戸県知事は「出生数の増加傾向をさらに確実なものとするため、これまでの施策を着実に推進するとともに、国、市町、企業、地域団体、NPO と連携し、さらなる支援策に取り組みたい。」と決意を述べました。



県連合婦人会が齋藤副知事を表敬訪問 (8 月 18 日)



兵庫県連合婦人会では、県内各地で市町、自治会、老人クラブや P T A 等と連携して、学童の出迎えや見守り運動を実践し、地域ぐるみで子どもを見守る運動に取り組まれています。その日頃の活動を齋藤副知事に報告。副知事は、「重要な取り組みなので、今後がんばって下さい」と北野会長以下婦人会の皆様を激励されました。

NPO と行政の子育て支援会議を設立 (8 月 25 日)



NPO と行政とが継続して情報を共有し、協働して子育て支援を行う枠組みとなる支援会議の設立総会が、ラッセホール(神戸市中央区)で開催され、引き続き、107 団体・180 名の参加者のもとフォーラムを実施。パネルディスカッションでは、NPO 相互の情報交換や研修会の開催や活動する場の確保について議論されました。

支援会議では随時、会員の募集・登録を行っています。

(問) 特定非営利活動法人さんびいす・0797-22-8896



若者しごと倶楽部サテライト播磨（加古川市内）を開設しました！

兵庫県では、平成 15 年 11 月から神戸駅前クリスタルタワーに「若者しごと倶楽部」を設置して、若年失業者等への就職支援サービスを提供してきました。このたび、地域におけるフリーターやニート等に対する、よりきめ細かな就職支援サービスを提供するため、6 月 18 日に若年者が多い播磨地域において、「若者しごと倶楽部サテライト播磨」を開設。地域に根ざしたネットワークを活用した様々な就職支援事業を行うため、地元の NPO 法人シーズ加古川へ業務を委託しています。「一人ひとり悩みは異なるので、個人にマッチしたカスタムメイドされた相談業務を目指したい。」と田中茂（シーズ加古川理事長）さんの掲げる理想は高い。田中さん自ら若者が集まる場所でチラシを配るなど広報にも力を入られています。また、相談員も、「現在、就職活動中の方や就職活動でお悩みの方、是非、気軽にご相談におこし下さい。私達が出来る限りのサポートをします。」と張り切っておられます。



【営業日】年中無休（年末年始除く）9:00～17:00

【場 所】加古川市加古川町寺家町 JA ビル 3 階 （問）079-423-2355

県庁インターンシップで学生を受け入れ（7月31日～）

若者の働くことへの関心・意欲を高め、主体的な職業選択、職業意識を育むため、大学生や高校生らによる県庁インターンシップ（就業体験）が実施されました。



「就職活動をするにあたって、実際に仕事の難しさや苦勞などを体験したい」という大学 3 回生の堀さんは少子対策課に配属され、子育て支援事業のチラシづくりなどを行いました。「自分が作ったチラシが、事業の周知につながり、地域ぐるみでの子育て支援が展開・拡大していく第 1 歩なんですね。」と仕事のやりがいを学んだ様子。「今後は、自分の働きで人の役に立てるような仕事に就きたい。そのために就職活動に励んでいきたいです。」と決意を新たにされていました。

全市町で妊婦健康診査に要する費用助成を行っています！

妊婦の皆さんが健やかな妊娠期を過ごし、安心して出産を迎えるためには、妊婦健康診査を受けていただくことが大切です。兵庫県は、本年 7 月から、県内に住む妊婦さんが、市町が実施する妊婦後期健康診査を受ける費用について、1 万 5,000 円を上限に助成を開始。県の助成を活用して、全市町（41 市町）で妊婦健康診査が行われています。



妊婦健診受診券交付状況（加西市）

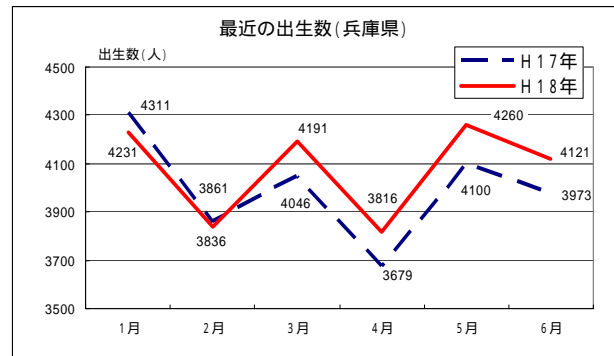
【健診対象者】県内に住所を有する妊婦で後期健診を受けられる方
（所得制限：児童手当に準拠）

【県予算額】5 億 3 千 48 万 5 千円

（問）各市町の母子保健窓口または県健康増進課 078-362-3250

県内出生数が上半期 2% 増加

8 月 21 日発表の人口動態統計速報によると県内の出生数は増加傾向にあり、18 年 1・2 月の出生数は昨年を下回ったものの、3 月は 3.6% 増、4 月は 3.7% 増、5 月は 3.9% 増、6 月も 3.7% 増と 4 か月連続で増加を続け、上半期合計では 2 万 4 千 455 人となり、昨年同期と比べ 2.0% 増加しました。県で上半期の出生数が前年を上回ったのは 4 年ぶり。全国も同様の傾向で、上半期合計で 2.2% 増となり、6 年ぶりに前年を上回っています。



少子対策について県民モニター「アンケート調査」を実施・結果発表(8月21日)

6 月 29 日から 7 月 11 日の 13 日間にわたり、「少子対策について」をテーマに、アンケート調査が実施され、その集計結果が発表されました。

回答者の約 9 割が、少子化は「問題である」と回答するなど、少子化問題に対して関心の高さがうかがえます。また、育児には父親が参加すべきとの回答が 9 割を超え、自由記入では「勤務時間を柔軟にするなど職場の理解」や「男性(父親自身)の意識改革」など、個人・職場・社会での意識改革がそれぞれ必要との意見が多くありました。

さらに、地域における子育て支援に「参加したい」との回答が約 6 割あり、地域での取り組みへの参加意欲がうかがえる結果となりました。

地域づくり活動情報システム(コラボネット)のご案内

子育て支援や子どもの健全育成などに関するイベントや研修会の募集情報などを、「コラボネット」から、手軽にインターネットで発信、閲覧できます。

- ・パソコンから <http://www.hyogo-vplaza.jp/index.html>
 - ・携帯電話から <http://www.hyogo-vplaza.jp/mobile/>
- (問) ひょうごボランタリープラザ 078-360-8845

大人と子どものマナーアップフォーラム開催

(9月9日(土) 13:30~16:30・加古川市民会館 小ホール)

社会の基本ルールや善悪などに関する価値観が揺らいできているなか、子どもたちが倫理観や他者を思いやる心などを培うことが大切です。このたび、マナーアップに関する住民の意識の醸成に努めるとともに、地域ぐるみ、学校ぐるみのマナーアップ運動を発展させるための第 1 歩として、子ども、大人双方の立場からマナーについて話し合うフォーラムを開催します。

(問)「東播磨マナーアップ運動」推進実行委員会事務局(東播磨教育事務所内) 079-421-9249

「ひょうご子どもまちづくり読本」を作成

次代を担う子どもたちの豊かな人間性を育むため、小学校高学年を対象とした総合学習で活用いただく「ひょうご子どもまちづくり読本」を作成しました。まちの観察方法やまちのプランづくり、まちづくりの仕組みなどを分かりやすく解説しています。一般の方にも読みやすい内容となっていますので、地域のまちづくり勉強会などでもご活用ください。

送付を希望される場合は、下記担当までご連絡ください。

(問) 都市政策課 078-362-9293



明石市 - こども基金

明石市は、平成 17 年 4 月に、市の出資金 1 千万円と個人、企業等からの寄附金をもとに、「こども基金」を設置。「子どもたちが安心して健やかに育つ地域社会づくり」を目的に、市民が主体的に行う子育て支援活動や児童虐待・非行防止等の児童健全育成活動への助成を行い、地域における子育て支援の風土づくりを進めています。

17 年度には、団体・個人から寄付があった約 1,387 万円から、公募による市民グループへの活動助成や社会福祉協議会を通じた「まちの子育てひろば」への運営助成、絵本の寄贈などに約 137 万円が活用されました。



基金助成事業「むりょう塾」

日本イーライリリー(株)(神戸市中央区)



日本イーライリリー(株)は、医療用医薬品の製造・販売を行なう米国の製薬会社の日本法人です。家庭で家族の健康や医療の意思決定をするのは主として女性。医療現場でも看護師、薬剤師は女性が多く、女性医師も増加傾向にあります。医薬品を開発し、製造・販売する企業として、男性のみならず女性の視点を会社の意思決定に反映することは企業としての発展に不可欠。ダイバーシティ(注)を重要視する本社でも日本法人でも、女性が働き続けやすい職場環境を整えており、昨年 4 月に育児短時間勤務の取得を小学校入学前まで延長し、今年 10 月からは小学校 3 年生まで延長する予定。また、営業職の産休・育休取得、復帰後の短時間勤務を容易にするためリリーフセールス、ダブルカバーの制度を導入し、今年 4 月には、在宅勤務制度も開始。社員が育児にも仕事にも力を発揮できる制度を拡充しています。

注)多様な人材の能力を活かし、社員一人ひとりが持つ違いを受け入れる取り組み

NPO 法人保育ネットワーク・ミルク (三田市)

保育ネットワーク・ミルクは、平成 5 年から「母乳にはなれないけれど、頼りになる粉ミルク」をコンセプトに“心に寄り添う子育て支援”活動を展開。「子育て」、「親育ち」、「子育て」、「子育て環境づくり」を合い言葉に、預かり保育のほか、親や子どものコミュニケーションを広げる事業を通して、子育てにやさしい社会づくりを目指しておられます。

毎年開催している子育て支援者講座やファミリーコンサートには、ミルクを巣立った親御さんからも温かい支援を得ておられ、「子どもを持つ親や家族が明るく子育てに関わることができる地域づくりが、かたちになりはじめています。」と、小泉雅子(ミルク理事長)さんは手応えを実感されています。

ミルクでは、子どもたちにより良い環境を提供するため、8 月に拠点を移し保育ルームを一新。このほか、15 年 10 月から神戸電鉄の委託を受けて駅構内の「よこやま保育園」を運営されており、16 年に開設された子育て支援スペース“みるくっく宝塚”でも同様の活動を展開されています。



編集部からのお願い

- ・兵庫県少子対策本部ニュースは、少子化の最新の動向、県や市町の取り組みや事業者、地域団体、NPO の先導的な活動を毎月 1 回、皆様にお伝えします。
- ・メール送信を希望される方は、下記編集部のアドレスあて「少子対策本部ニュース・メール送信希望」と送信ください。環境配慮(ペーパレス化)のためにも、メール送信にご協力ください。
- ・掲載を希望される記事、情報などがありましたら下記まで連絡ください。

兵庫県少子対策本部事務局：〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1

(健康生活部少子局少子政策課)

TEL:078-362-4232 FAX:078-362-3011

E-mail:shoshiseisaku@pref.hyogo.jp

子ども未来通信 9 月号



「ひょうご女性再就職奨励金」2社で試行雇用が開始



適用第 1 号のモロゾフ(株)

兵庫県では、出産・育児により退職された女性の再就職を支援するため、要件に該当する女性離職者の正規雇用を前提に試行雇用した事業主に対して最大 30 万円を支給する奨励金制度を 6 月 20 日に創設。

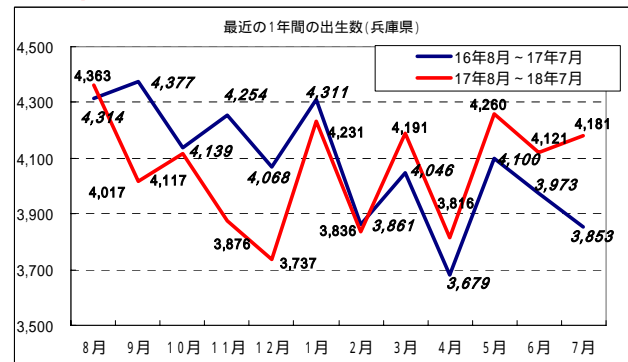
このたび、モロゾフ(株)(本社：神戸市東灘区、菓子の製造販売等)が 9 月 21 日から、上月ウディックス(株)(本社：丹波市山南町、各種建材・木材等の製造販売)が 10 月 1 日から、各 1 名の社員を奨励金支給の対象となる試行雇用することとなりました。(問) 少子対策課 078 - 362 - 4186

県内出生数が 5 ヶ月連続増加、7 月は前年同月より 8.5% 増

県統計課の発表によると、7 月の出生数は前年同月を 8.5% 上回り、今年 3 月から 5 ヶ月連続の増加。

今年 1~7 月の合計は、2 万 8 千 636 人となり前年同期の 2.9% の増加となりました。

なお、全国の出生数も 6 ヶ月連続で前年同月を上回り、7 月は 3.3% 増となっています。



阪神地域の若年者層への就職支援を強化



兵庫県では、平成 15 年 11 月に神戸駅前クリスタルタワーに「若者しごと倶楽部」を設置して、若年失業者等に対して就職に関する相談、支援セミナーの実施、及び職業訓練施設等についての情報提供を行っており、本年度はさらに、6 月 18 日に「サテライト播磨」を開設したのに続き、7 月 13 日に「サテライト阪神」を開設。

サテライト阪神に隣接する「尼崎パートバンク(兵庫労働局の機関)」においても、8 月 28 日から新たに求人情報検索装置を設置するなど、職業相談・職業紹介等の充実が図られ、両機関の連携により若年失業者等に対するキャリアカウン

セリング、就職に関する相談・情報提供から職業紹介まで一元的なサービスが提供されるようになりました。

【場 所】尼崎市南塚口町 2 丁目塚口さんさんタウン 3 番館 5 F

【営業日時】月曜日～土曜日(休祝日、ビルの休館日及び年末年始を除く。)

10 時～18 時(土曜日の求人情報検索機器の利用は 17 時まで。)

淡路地域子ども未来プラン推進協議会を開催(9月26日)

淡路地域の少子対策の推進母体となる淡路地域子ども未来プラン推進協議会が発足し、第 1 回会議が開催されました。

協議会は、子育てグループ、保健、医療、福祉、労使などの関係団体や行政の代表 17 名で構成。この日の会議では、淡路地域の少子化の現状と課題、実施されている事業を踏まえ、「子育て情報の伝達」、「乳幼児を抱えた親への支援」、「待機児童の解消」、「妊婦健診助成制度」などについての要望や提案など活発な意見交換が行われました。同様の協議会は既に中播磨地域でも設置されています。



ひょうご出会いサポート事業、第 1 回職場交流会開催 (9 月 17 日)



ゲーム大会の様子

(問) ひょうご出会いサポートセンター ((財) 青少年本部内) 078-367-3810

社会全体で結婚を応援するため、「ひょうご出会いサポートセンター」が第 1 回職場交流会をラッセ・ホール(神戸市中央区)で開催。今回は、職場交流会のプレゼンテーションを兼ねたイベントで、8 つの企業・団体から 16 名(男性 8 名、女性 8 名)が参加。趣味や仕事などを話題にすぐに打ち解けて、自然に異業種交流となり、カップルも誕生しました。

今後も、サポートセンターは、テニス合宿(10 月 7 日~9 日)をはじめ、クルージングなど多彩なイベントを企画し、男女の出会いの場づくりを進めます。

ポラターン研修保育園研修の開催(8 月上旬~)

8 月上旬から、県職員や市町職員が保育の体験を通じて、子育ての楽しさや少子化問題に理解を深めることを目的とした保育園研修の実習が、明光保育園ほか 26 カ所の施設において行われ、72 名が参加しました。

実習は、3 日間にわたり、早朝の児童の出迎えから、遊び、寝かしつけなどを体験。参加した研修生らは、「子育ては大変なことだと思っていたが、楽しかった。普段接することのない幼児と遊び、寝かしつけた経験が将来の子育てに活かそう。」と笑顔で話し合っていました。



特色ある施設の紹介

賀茂幼児園(加西市)~ 保育所と幼稚園を一体的に運営している実例 ~



賀茂幼児園では、保育所(0~5歳児)を長時間保育部、幼稚園(5歳児)を短時間保育部として一体的に運営し、5歳児は、長時間保育と短時間保育の混合クラスとなっています。

当幼児園では、0~5歳児まで一体的に教育・保育を行っており、午前中に全園児で遊ぶ「おはようとなかよしタイム」をもうけるなど、異年齢の交流も大切にされています。「年長児は年少児に接することにより思いやり

の心が育ち、年少児は年長児の行動を見て学びます。」と園長。

また、「0~5歳まで子どもを継続して受け持っていたいただけるので、安心して預けられる。」との保護者の声も。

幼稚園と保育所の職員が協力し、お互いの良さを活かして、食育の推進、小学校や地域の老人会との交流など、教育内容・保育内容の充実・工夫に努められています。

【長時間部】・月~金: 8:00~16:00

(早朝保育7:30~8:00、延長保育16:00~18:00)

土: 8:00~12:00(早朝保育7:30~8:00)

・対象者: 0~5歳児

【短時間部】・月~金: 8:30~14:00

(早朝保育: 7:30~8:30、緊急一時保育14:00~18:00)

・対象者: 5歳児



「おはようとなかよしタイム」

「平成 18 年版少子化社会白書」表紙の「赤ちゃんの写真」募集中（内閣府）

内閣府では、現在作成中の「平成 18 年版少子化社会白書」の表紙や内部の挿絵に使用する「赤ちゃんの写真」を公募しています。（締切：平成 18 年 10 月 20 日）
詳細については、下記内閣府ホームページをご覧ください。

【ホームページ】<http://www8.cao.go.jp/kourei/index.html>

（問）内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付 少子・高齢化対策第 1 担当
03-5253-2111（内線 44157）



昨年の白書

「みんなの子育て講座」（平成 18 年度兵庫県生活創造大学）受講生募集中

子育てを大切にできる社会をめざして、子育てに関わる誰もが、無理なく楽しく子どもに接する方法を学ぶための講座を開催します。

【日 程】平成 18 年 10 月 28 日（土）から 2 月 3 日（土）の間の 7 日間

【場 所】県立男女共同参画センター

【内 容】10/28（土）「子育てを楽しむために～スターペアレンティング」

「未来をひらく男女共同参画」「絵本で子育て」

11/ 4（土）「子育てのスキル ～問題を避ける～」 「絵本で子育て」

11/18（土）「子育てのスキル ～良い行動を見つける～」

「のびやかスペースあーち」子育て支援施設見学

12/ 2（土）「子育てのスキル ～感情を認める～」 「簡単！クリスマスツキッ」

1/20（土）「子育てのスキル ～限度を設ける～」

「子どもの事件から、子育てを考える」（仮題）

2/ 3（土）「子育てのスキル ～新しいスキルを教える～」

交流会・閉講式

【定 員】県内在住または在勤・在学の男女 50 名（先着順）

【受講料】3,600 円

【一時保育】原則 1 歳半以上就学前まで（無料・要予約・先着順）

（問）県立男女共同参画センター 企画啓発課 078-360-8550

2006 年東はりま地域子育てネットワーク交流大会の開催

（10月31日（火）13:30～16:30・高砂市文化会館大ホール）

未来を担う子どもたちの育成を地域で支えるという気運を高め、子育て支援者の裾野を広げることを目的とした交流会を開催します。

【内 容】：ひょうごさわやかステージ、各種表彰、活動事例発表（3市2町）

講演「地域が育む子どもの未来」

（村田溥積氏：法学博士、和歌山県人権施策推進審議会委員）

（問）東播磨女性団体連絡会事務局（東播磨県民局県民生活部県民運動課）079-421-9290

川に遊び、川に学ぶ「千種川圏域清流づくり委員会 秋のイベント」開催

（11月5日（日）10:00～受付開始・赤穂海浜公園西駐車場南端付近（赤穂唐船サンビーチ入り口付近）集合）

大人と子どもが一緒になって、千種川河口でのアユの生態や珍しい生物について学んだ後、域内の食材からつくった千種川汁をふるまうなど、子どもの豊かな心を育む「原体験」にどっぷりつかれるイベントを開催します。

【参加費】大人 500 円、子ども（3 歳以上高校生以下）100 円、事前申し込み不要
別途駐車場代 500 円が必要です

【持ち物】弁当、千種川汁用の自前お椀と箸、水辺観察のできる服装や靴、雨具など

（注）雨天時は、室内で封入標本づくり など

（問）西播磨県民局県土整備部上郡土木事務所 0791-58-2229

マタニティコンサートの開催

（11月29日（水）・（2回公演）11:00～、14:30～・兵庫県立芸術文化センター 小ホール）

外出する機会が少なくなるマタニティの方向けにコンサートを開催します。

【出 演】仲道郁代：ピアニスト

【入場料金】2,000 円（ワンドリンク付）

（問）兵庫県立芸術文化センター 事業部 0798-68-0206

三木市 -みきっ子未来応援協議会-



三木市では、今年度から、「子育てのよこびを実感できる三木市」をめざして乳児期への経済的支援策として2人以上の子どもを養育する保護者に、子どもが1歳になるまで月額1万円を支給する「乳児養育手当」を創設。また、産婦人科医院を増やすための助成制度を開始するほか、子育て相談を充実させるために臨床心理士や保健師を配置するなど新しい取り組みを始めました。

さらに10月から、市民をあげて子育て支援を推進するために、教育委員会部局と連携して、子育て支援や子どもの健全育成などに関係する協議会を統合、発展させ「みきっ子未来応援協議会」を設置。12月に協議会設立を記念して、子育てサークルや冒険ひろば、老人クラブ、青年会議所、企業などの代表が協働で、「こども未来応援フォーラム」を実施します。

㈱ポレ・ポレ(宝塚市)

株式会社ポレ・ポレは、多様化するライフスタイルにより生じる家事・育児・介護など、家庭のニーズにあわせてきめ細かなサポートを展開しています。また、同社では、「女性が働き続けられる環境づくり」を目標に、育児・介護休業を取得しやすい職場環境づくり、小学校修学前の子どもを持つ社員への保育施設等の利用費用補助やインターネット・メールを活用した在宅勤務が積極的に進められています。



大崎穂乃美さん(株式会社ポレ・ポレ コーディネーター)は、「お客様と同様、社員が仕事を続けられるように話し合い、手助けを必要とする一時的な時期に会社が可能な手助けを行うことで、安心して仕事を続けていけるといいう具体的なイメージを社員に持ってもらうよう努力しています。」と、子どもを生み育てる環境づくりの大切さを語られました。

神鋼環境ソリューション労働組合



神鋼環境ソリューション労働組合では、4年前から20代の若手を中心とした「ビジョンづくり委員会」を設置して、10年後、20年後のビジョンづくりを行っています。今年は、「働くことについて考えよう」をテーマに、清原兵庫県理事を勉強会の講師に招くなど、労働組合の最大のミッションである「雇用の確保」と「労働条件の維持向上」に加え「子育てと仕事の両立」の視点から働き方の見直しに取り組んでいます。人は働くことによって生き甲斐を感じたり生活の糧としての収入を得て家族を養う一方で、働くことによって悩み、家族団らんの時間をなくし、心身を害することさえあります。そこで、仕事と生活の調和や女性の社会進出なども含め「働く」ことについて、まずはみんなで考えてみようというのが今回の目的です。関谷久之執行委員長は、「こうしたセミナーで学んだ成果を、福利厚生諸制度の見直しや職場環境の改善などにつなげていきたい。」と意気込みを力強く語られました。

こどもコミュニティケア(神戸市)

こどもコミュニティケアは、「子どもたちがより健やかにより生き活きと成長できる地域社会づくり」を目指して、平成16年に小規模保育施設「ちっちゃな保育所」をオープンしたほか、親子クラスや、子育て講座など「少人数制」、「個別性」を大切に事業を展開しています。

「ちっちゃな保育所」では、看護師と保育士が見守る中、健康上の不安のないお子さん、気管内吸引・与薬などの医療ケアや観察が必要なお子さん、障害を持つお子さんが、ごくふつうの家で、兄弟のようにもともに過ごしています。



めまぐるしく変化し、さまざまな情報が飛び交う現在の都市だからこそ、保育の中では自然とのふれあいを大切に、じっくり子ども同士が関われる環境づくりや目と手が行き届くよう手厚い保育者の配置を行っています。

また、家庭生活とのつながりを重視した個別対応も欠かせません。今後は、保育の質・内容はもちろん、親子参加の企画なども充実させていきたいと考えておられます。

編集部からのお願い

・メール送信を希望される方は、下記編集部のアドレスあて「少子対策本部ニュース・メール送信希望」と送信ください。

兵庫県少子対策本部事務局：〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1

(健康生活部少子局少子政策課) TEL:078-362-4232 FAX:078-362-3011

E-mail:shoshiseisaku@pref.hyogo.jp